

＜北海道熊研究会 会報＞ 第64号 2016年 11月 22日

ご意見ご連絡は下記の email へどうぞ

e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

既報会報の1～62号は Website に「北海道野生動物研究所」と入力しご覧下さい

「北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association の活動目的

熊の実像について調査研究し、熊による人畜及びその他経済的被害を予防しつつ、人と熊が棲み分けた状態で共存を図り、狩猟以外では熊を殺さない社会の形成を図るための提言と啓発活動を行う。この考えの根底は、この大地は総ての生き物の共有物であり、生物間での食物連鎖の宿命と疾病原因生物以外については、この地球上に生を受けたものは生有る限りお互いの存在を容認しようと言う生物倫理(生物の一員として人が為すべき正しき道)に基づく理念による。

日本の熊類に関する話題 2題

＜1＞ 熊 U.arctos と月輪熊 U.thibetanus の人身事故の違いについて

・月輪熊は熊よりも、人を襲う傾向が強い。例えば) 2010年1月～12月間に日本で熊による人身事故件数。本州(月輪熊)=81件(死亡事故は2件:山菜採と田畑の作業中各1件)、北海道(熊)=3件(3件とも死亡:山菜採2件、狩猟1件)、割合27:1である。月輪熊に関する資料とその分析は「日本熊森協会」と門崎との共同作業による。

事故の発生箇所では、月輪熊は、6分類される。

- ① 山菜採登山魚釣で、21件。②山林作業で、6件。③撃ち損じ等捕獲で反撃、11件。
④ 散歩や運動中、8件。⑤田畑の作業中、14件。⑥自宅を含む敷地内やその付近23件。

・熊による人身事故は、1970年～2016年7月末現在(47年間)、総件数84件、猟師32件、一般人52件(年平均1.1件)、月輪熊に較べ、非常に少ない。しかも、畑での事故2件、散歩の事故1件である。熊の事故は、殆どが、熊の生息地内で生じて居ることが特徴である。それに比し、月輪熊の事故は、人の日常生活地(宅地や農地)で、37/81=47%も生じており、予防対策が難しいと、私は看取している。

＜熊が人を襲う原因＞ 月輪熊が人を襲う原因は、2大別される。① 排除の為(不意の遭遇、縄張りの占有、何かを得るため、猟師への反撃、等)。② 戯れの為。熊の場合は、①と②の他に、③として、「人を食う為に襲う事がある」。

＜人身被害の予防＞ 曖昧な考え、対応は、命取りになる事、肝に銘ずべきであると、私は言いたい。その上で、この大地は、総ての生き物の共有物と言う生物倫理(生物の一員である人が、他種生物に為すべき正しき道)に基づき共存すべきである。よって、「熊が居るかも知れない場所に、行く場合には、アイヌが隣家に行く場合でも、熊との遭遇そして襲われての生還のために、タシロ(先が尖った鉈に似た刃物)やマキリ(小型の刃物)を、常に携帯した習慣を見習うべきである。

それ故に、私は、皆さんに、「ホイッスルと鉈の携帯」を勧めるのである。熊が人を襲

えば、その熊は追跡され殺されるし、そうでなくとも、人身事故があれば、熊は怖いもの、居ない方がよいものとの世論を醸す事になる。

<実際の行動>

- ① 熊に己が見つけられる前に、自分が先に熊を見つける様な、歩き方、進み方をする事。
- ② 時々、ホイッスルを吹く。ホイッスルは軽く、音も遠方まで、届く、これで、熊との遭遇も回避できる。音が出っぱなしのラジオ等は、辺りの異変に気づきづらいので、だめである。
- ③ 熊と遭遇した場合は、熊に話し掛ける事だ。
- ④ 熊がどうしても、離れて行かない場合は、怒鳴り付ける事だ。
- ⑤ 熊が襲い掛かって来た場合は、鉈で、熊のどの部位でも良いから叩き付ける事。襲い来るものに対し、無抵抗はひどい場合は殺される。これは、人、獣などに依る攻撃から、我が身を守る共通した総ての場合の、鉄則である。

<2>秋田県で、月輪熊 *U.thibetanus* による死亡事故が 4 件発生>

5月20日から6月10日の間に、秋田県大湯の山林で、千島笹 *S.kurilensis* (根曲竹とも言う)の子(笹竹の子)を採りに行った者が次々、同じ熊に襲われ、4人が死亡する事故があった。

- ① 第1の事故、5月20日朝、高瀬佐市さん79歳が、鹿角市十和田大湯の竹林のタケノコ採りに行き、翌日、7時頃、顔や上半身に引っ掻き傷を受け死亡しているのを、発見した。
- ② 第2の事故、同じ竹林に、5月22日朝、高橋昇さん78歳は、妻とタケノコ採りに行き、午前7時半頃、棒(サイズは不明)を持ち、熊と対峙している昇さんに、妻は逃げるように、言われ、現場を離れ、急を知らせ、現場に戻ったところ、やはり、顔や上半身に引っ掻き傷を受け死亡しているのを、発見した。
- ③ 第3の事故、前記①と②と同じ大湯であるが、①と②の現場から、2~3km離れた地所で、5月25日早朝に単身でタケノコ採りに出掛けた高谷善孝さん65歳が、全身に多数の引っ掻き傷と咬まれた傷(?)を受け、死亡しているのが、30日午前11時頃発見された。
- ④第4の事故、6月8日には、鈴木ツワさん74歳が襲われ死亡し、加害熊は10日にツワさんの遺体付近で射殺された。体長1.3m程、推定6歳の雌であったと言う。この熊が人を襲った原因を、私は「己の餌場に侵入して来た人間を、排除する為に襲った」と見ている。前記①と②の情報は「小坂町役場 総務課長の 成田 祥夫さん」に依るもの、③と④は門崎が、報道された資料に基づく。

<門崎の見解>4件の、加害熊は、事故の場所が3km圏内で生じて居る事、被害者の受傷部位がほぼ全身に及び似ている事、被害発生時刻が、いずれも午前中である事、の同似性から、私は同一熊に依ると見る。襲った原因は、人をその場から排除すべく、襲ったものであるろう。

(了)